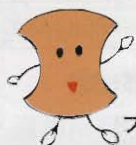


阿岐のまほろば

Vol. 40



ファンちゃん

西条駅北に中世四日市をみた!!



ファンちゃん

御建遺跡 (西条町西条)



御建遺跡 A・B 区全景 (北西から)

御建遺跡は J R 西条駅北約10m 駅から徒歩5分の平地に位置する中世から近現代の複合遺跡です。

西条駅北広場の造成事業に伴い、平成21年7月から11月までの5ヶ月にわたって約1288㎡の範囲を発掘調査しました。

御建遺跡の東方500mには、史跡安芸国分寺跡が存在し、西条駅を挟んで南側には近世四日市遺跡が広がっています。

これまで西条駅周辺の発掘調査では、主に駅南側の調査が行われ、その結果上記の近世四日市遺跡の成果がもたらされましたが、駅北側については不明な部分が多く、今回の調査で詳細が判明す

るのではないかと、期待されていました。

調査の結果、中世の掘立柱建物跡・溝状遺構・道状遺構・井戸に加え、近代のレンガ建築物が見つかりました。掘立柱建物跡は厩(馬小屋)の可能性があり、厩であれば県内2例目の発見となります。また道状遺構からは、中世の建造物の芯材である木舞が検出されています。レンガ構造物は醸造関係の施設跡と思われ、酒処西条を象徴する非常に興味深い遺構です。

今号では、この西条駅北御建遺跡の発掘調査成果をお知らせします。

(さき西) 補遺

今回の発掘調査では、調査範囲1288㎡を3つの区域に分け、それらを東からA・B・Cとし、調査を行いました。

A区

調査区が一番東側に位置するA区では、主に土坑や溝状遺構が検出されましたが、現代の宅地造成に伴う破壊を随所に受けており、検出された遺構は全て現代のものでした。

B区

A区と道路を挟んで位置するB区では、掘立柱建物跡・溝状遺構・井戸・レンガ構造物が検出されました。

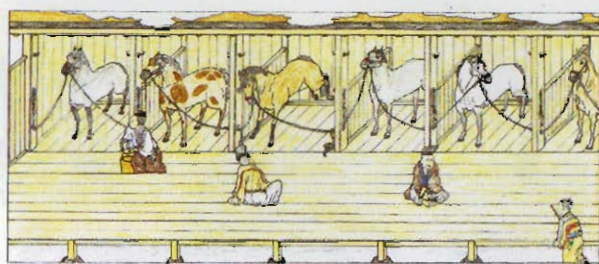
厩跡

掘立柱建物跡は中世の厩跡と考えられます。規模は桁行20m以上、梁間約5mです。厩の構造は、一間(2m)幅の小部屋と下屋柱が並び、反対側に半間(1m)幅の下屋柱が並ぶ造りになっています。通常の厩は、一間ごとの小部屋幅は2.4mですが、当遺構の小部屋幅は約2mとなっており、厩としては狭い幅です。さらに厩の床下には小便溜りがあるのが一般的ですが、それも見つかっておらず、厩と断定できるだけの特徴を持つ遺構は確認できませんでした。

しかしながら、彦根城のように2m幅の厩も存在することから、この建物跡も厩跡と考えるのが一番可能性が高いと思われます。厩跡だとすれば、宿場町として知られる「四日市宿」ならではの遺構と言えます。



厩跡(西から)



中世の厩(『山口異作品集』より一部改変)

レンガ構造物

B区南側で検出されたレンガ構造物は、大正から昭和にかけての醸造関係の遺構と推察されます。形はほぼ正方形で1辺の長さが約3.8m、残存高が約1.4mです。レンガの積み方は「イギリス積み」といわれる積み方で、レンガの長い面ばかりの段と、短い面ばかりの段を交互に重ねる積み方です。使用されているレンガは、耐火レンガではなく普通レンガで、生産地や生産者を示す刻印も刻まれていませんでした。

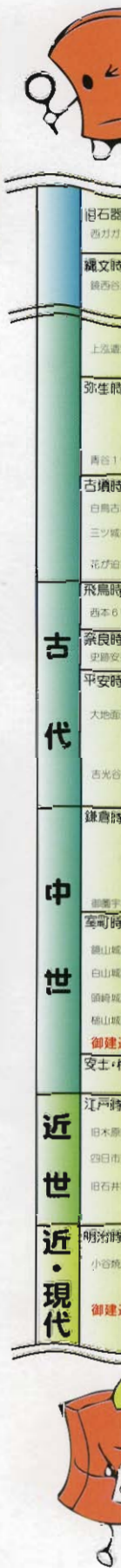


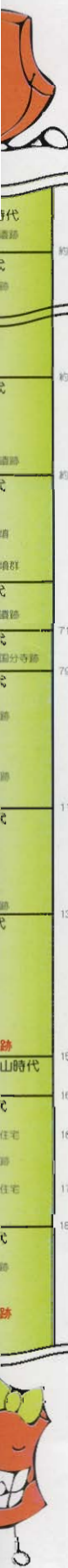
レンガ構造物(南から)

この遺構が検出された当初は、焚口が存在しているため、煙突の基部ではないか。という意見が出ました。しかし

- ・煙突の基部にしては規模が大きすぎる。
- ・壁の内面が煤けていない。

との理由で、「煙突説」は消え、次に出てきたのが、「風呂跡説」です。というのは、以前この場所には、醸造会社の宿舎が建っており、杜氏さんが風呂として利用していたのではないかと推察されました。





しかしこれについても

- ・焚口が小さい
- ・壁の内側が煤けていないから、風呂跡よりも洗
い場の可能性があるのでは

との意見が出、完全にという訳ではありませんが、
「風呂跡説」も違うのでは、という結論になりました。その後何人かの専門家の方に見ていただき

- ・遺構南側の壁はレンガを綺麗に積んでいるが、
東・西・北の壁はレンガの積み方が荒い。これは
南側以外は外から見られることを前提として
いない積み方である。南側を出入り面とし、他
3方は土を建築物の形に掘り下げ、内側からレ
ンガを積み上げたのであり、こうした構造は醸
造関係の建築物によく見られる。

- ・焚口があるので、竈だとは思いますが、内壁が煤け
ていない。

という見解をいただきました。



レンガ構造物・外壁（東から）

当遺構とよく似通った外観を持つ醸造関係の施
設として、東広島市志和町の千代乃春酒造さんが
あり、こちらは醸造米を蒸す竈です。外観だけで
なく、1面が落ち込み式になっている所などがよ
く似ています。千代乃春さんの関係者の方に見解
を伺うと

- ・内壁が煤けていないので竈とは思われないが、
こういった性格の建築物かは判らない。

とのことでした。

以上の経緯から、このレンガ建築物跡は竈と断
定はできないものの



千代乃春酒造 竈その1



千代乃春酒造 竈その2

- ・焚口を備え『こしき』用の和釜がちょうど一口
はまる規模であること
- ・以前この場所には醸造会社の関連施設が建って
いたこと
- ・内壁が煤けていないことについては、土を和釜
の底部の形に盛り付け、造成したのではないかと
思われ、竈の可能性が一番高いと推測されます。

このレンガ建築物が、醸造米を蒸す竈跡だとす
ると、『酒処西条』を象徴する遺構といえ、非常
に貴重な発見です。

C区

調査区の西端に位置するC区では、B区と同時
期の掘立柱建物跡が検出され、こちらも概と考
えられます。また、調査区を南北に縦断する道状の
遺構が検出されました。



御建遺跡C区全景（北東から）



道状遺構（南から）

幅は5～6mで、深さは北側で約45cm、中央部で約75cm、南側で約1.5mです。遺構北側で灰色土で造成された、道と思われる面が検出され、両側に側溝が設置されていたため、道の可能性が高いと思われます。しかし、遺構中央南側に池状の落ち込みがあり、ここから建物土壁の下地である木舞や柱材、櫓・曲物等の木器が出土し、道ではなく溝・宅地跡、あるいは先述の既に繋がっていたであろう、馬を洗うための洗い場としての可能性も出てきました。また木舞だけでなく、建物の屋根に使用されたとと思われる菅が、南側の溝へ流れ込む形で堆積していました。このことから、当初は道として利用されていたものが、時と共に道としての機能を失い、池状の落ち込みが設置されたと推測されますが、或いは当初から馬用の洗い場・井戸・付属の道として作られたのかもしれませんが。



木舞検出状況

またC区全域から、五輪塔の一部や石仏が発見されました。このことから近くに墓地が存在していたのではと思われます。出土品には、15世紀後半から16世紀後半にかけての青磁や中国陶磁、土師質の土鍋等の生活用品が出ており、15世紀後半から、16世紀後半にかけての時代に中心があると思われます。

以上のことから、御建遺跡は中世四日市と密接な関係にあり、宿場町四日市宿・酒処西条を語る上で非常に重要な遺跡であるといえます。（佐武）



御建遺跡位置図（1:25,000 安芸西条）

阿東広島市教育文化振興事業団 文化財センター編

阿岐のまほろば Vol. 40

発行日 2010（平成22）年 3 月 5 日

発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団文化財センター

編集 東広島市西条町馬本541-1

TEL 082-425-3880 〒739-0033

<http://akimamahoroba.or.jp>

印刷 大東印刷株式会社

東広島市西条下見丘丁H8-17

